

産業祭の開催場所変更の成果は？

昨年より経費を節減し、にぎわいのある産業祭ができた

馬場 茂

問 中心市街地活性化という目的の成果はあったか。

答 旧中山道及び深谷駅周辺に移し、「まちなか」に開催した成果としては昨年より経費を節減し、既存の商店街の方々から「多くの人出があり、売上もあり、ありがたい」等の声があった。

砂ほり対策は進んでいるのか

問 平成22年度の実績で中低木の植栽の長さが計画より短かった理由は。

答 計画では植栽を230メートル予定したが、応募がなかったため、埼玉工業大学のグラウンドにレッドロビン94メートル、金柑30メートル植栽した。

問 地域のひととの座談会の回数と参加人数は？

答 1回で参加者は41名だった。

問 本格的な対策を実施する時期に来ていると思うが、今後の計画は？

答 ①緑肥作物の本格導入の検討。②植栽・防風ネットの補助制度化の検討。③畑かん施設導入の検討等考えている。



埼玉工業大学グラウンドの植栽

企業誘致計画の進捗状況は

問 上原・境地区約20ヘクタールの土地に企業誘致の計画があるが、その進捗状況と今後の予定が聞きたい。

答 昨年度、埼玉県企業局は「概略可能性調査」を実施し、土地利用の検討や事業の採算性などを検証した。現在は、事業着手の適否を判断する「詳細可能性調査」に向けた内部調整が進められている。市も、地元説明会や文化財試掘調査などで協力してきた。

高齢者を孤立化させない体制の充実を

地域住民による見守り活動も有意義であり研究していく

五間くみ子

問 高齢者の身守り体制の構築は重要課題、現状把握を民生委員に頼るだけではいけないのでは。

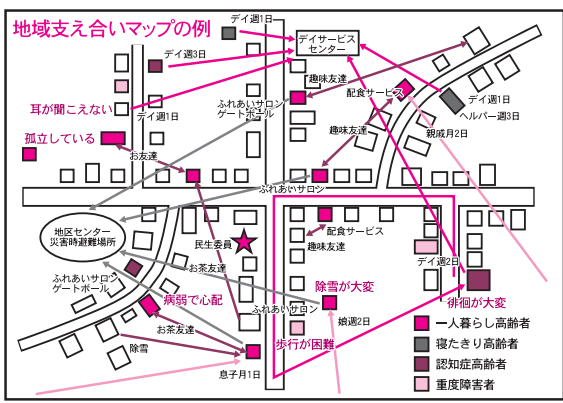
答 自治会・関係機関等と情報交換しながら、実態把握に努めていく。

問 地域で日常的に支え合う仕組みづくりの手法に「地域支え合いマップ」がある。導入の考えは。

答 日常の支援を要する高齢者の身守り活動だけでなく、災害時の安否確認などへの活用も期待できることから、今後、調査研究していく。

問 介護保険制度改正で「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取り組みの強化が求められる。現在も先進地では、地域包括支援センターを活用した高齢者の見守り体制作りが進められている。現状のように広域の体制では、保険者である大里広域市町村組合との連携強化は、ますます必要であると思うが、市の考えは。

答 深谷市の高齢者福祉サービスの充実に向け、今回の介護保険法の改正を踏まえ、今後も保険者である組合と地域包括支援センターとの包括会議、構



地域支え合いマップの例

成市町との担当課長会議等々を開催し、連携強化を図っていく。

問 体制強化を図るためには、現在の包括数や地域割では難しいのでは。

答 地域包括支援センターの数と日常生活圏域については、必要に応じ見直しも必要と考える。また、地域包括の機能強化については、今後、同センターとの連携を強化することなど、さまざまな選択肢の中で検討していく。

医師不足解消対策の医師育成奨学金貸与の進捗状況は

厳正なる選考を行い奨学金貸与候補者2名を決定した

柴崎 重雄

問 本市は医師不足解消のため医学部受験を目指す生徒に合格時、学費の全額貸与を約束する制度を設けた。現在の進捗状況を聞きたい。

答 昨年6月上旬より広報ふかや、その他に掲載、周知を行い、7月中旬より募集したところ40名の応募があった。その後、第一次、第二次選考を実施し、2名の候補者及び13名の補欠候補者を選考し、10月中旬、本人に通知及び市ホームページでの結果発表をした。

自転車の事故防止対策は

問 震災以後、自転車の利用増加に伴い事故が増加している。また、平成20年の道路交通法改正により、安全利用の促進が急務であるが市の取り組みは。

答 キャンペーン・広報などで啓発を行い、警察と連携し交通安全教室を開催、ルールとマナーの周知徹底を目指したい。

放射線量について

問 原発事故で指定された区域外で局地的に放射線量の高い地点の存在が認め



交通安全教室

深谷市も「ネットワークおぢや」に参加を!!

加入する方向で、調整を進めている

為谷 剛

問 新潟県小千谷市は、中越大地震の経験をよりよく生かす方法の一つとして

「中越大地震ネットワークおぢや」である。現在までに60の行政機関が参加しており、これまでも能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震等の際に、ネットワークの機能を十分に果たしている。深谷市も職員をはじめ、市民の防災意識を高めていくことが大切では。

答 調査の結果、深谷市における防災力の向上に当たり、大変有意義な組織であり、本組織に加入する方向で調整を進めている。

問 中央土地区画整理区域内に計画されている、キンカ堂跡地西側から市役所に向かう「深谷駅通り線」の早期整備の実現は、市の新しい顔となる拠点形成が期待でき、市民生活の利便性をも向上させる重要な整備と考えるが、

深谷駅通り線の早期整備を

深谷駅通り線の移転状況は、既に先行買収した部分も含め約42%にとどまっている。この道路が完成すれば中心市街地の利便性も向上し、にぎわいも図られるものであり、重要な路線と位置付けている。早期に移転ができるように、新たな移転方法の導入や仮換地の調整を行い、移転促進に努めていく。



深谷駅通り線イメージ図